

平塚柔道物語 6 3

お笑い芸人 青木愛

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

平塚柔道協会の指導者・真田州二郎は、大野中学校当時（部活指導者）を振り返り、塩澤茜のことを語ってくれた。

「同学年の誰よりも遅れて入部した塩澤茜、100メートルを14秒台で走るのを見て『その脚力を柔道で活かしてみないか』との私の一言で彼女は入部した。その思い切りの良さに加えて集中力と粘り強さが実を結び、大野中学校女子チームの全国大会出場を決めた茜の背負い投げは、何年経っても忘れない。そして県大会で優勝できなかった悔しさをバネにして、関東大会で優勝したのは見事であった。頑張り強い茜は、粘り強さのチャンピオンである。現在、愛知県の中学校の教員として、職場はもちろん柔道の部活でも明るく楽しいものに築きあげることができたのも彼女の粘り強さの成果ではあるまいか。茜の御主人の職場は、滋賀県の近江高等学校である。近江高等学校といえば、全国でも一流選手を出している有名校だ。その監督として、多くの部員を面倒みているということは、多くの苦労もあるであろう。監督の妻として、夫を支えることはこれまた大変なことであろう。茜は自己のかかわる生徒たちの指導に加え、監督の妻としての役割をこなす。この2つのことを同時にこなすことは大変に難しいのではないか。私は茜の身体も心配している。」と語った。

いつまでも師は弟子のことを忘れない。心配もしている。弟子も師を忘れない。師弟の関係は美しいものである。また、協会の真田の弟子である山下海渡君が今年近江高等学校に入学することになっている。師と弟子の流れに、また一人の弟子が加わり、新しいドラマが展開することになるであろう。

次に三羽鳥の2人目として青木愛を紹介したい。

平成26年2月6日、テレビ朝日で深夜11時15分から、柔道部芸人というタイトルで、

吉本興業の9人の元柔道部選手が出演、柔道を通してお笑いが放映された。その9人の中に1人だけ女性の黒帯がいた。それが平塚柔道協会の青木愛であった。芸名は「あいすけ」、出演者9人の中でも彼女は輝いていた。番組中の彼女は「中学より柔道を始めて、僅か2年半で全国3位に輝いた」ことを話す。さらに「北京オリンピックを目指して、全日本ジュニア強化選手に選ばれ、オリンピックの金メダリスト松本薫選手ともよく練習した」と語り、周囲を驚かした。また彼女の得意の大外刈りも紹介。彼女にカメラを向け、母校の横須賀学院高校の柔道場でのトレーニング、練習風景など、多くの時間を割いて放映されたのであった。

私が最近の青木愛と会ったのは、平成26年2月2日の県大会で協会出身の浜岳中の選手たちが団体戦で男女ともに優勝した記念すべき日であった。「なぜ、柔道からお笑いの吉本興業に入ったのか」は、私の一番の関心事である。それを探るべく、私は彼女からいろいろ話を聞いた。話を聞くうちに、彼女の人生は、笑いあり涙ありのドラマのようであったことを実感した。そのことをここに紹介したい。彼女は、中学に入学すると、部活に何をを選ぶかということで、バレーボール、テニスなど、一通りを見て回り、剣道部に仮入部したという。しかし、剣道部を再び見学した時に、武道場の半分を利用して柔道部員のトレーニングに心を惹かれた。そこへ自分の大好きな高田延彦というプロレスラーにそっくりの真田教師に出会ったのである。なぜ高田延彦がここにいるのかわからなかったほど似ていたという。彼女は、即刻、剣道への仮入部を断り、柔道部に入部したのであった。

— 続く —



テレビ出演した青木愛